



HOT! NEWS



▲週刊ダイヤモンド
2015年10月10日号

『新学校選びランキング2015』で名古屋国際が総合順位第1位!!

本校の教育への取り組みが評価され、2015年10月10日号の週刊ダイヤモンドの特別付録「息子・娘を入りたい学校」の中京版で本校が総合順位で第1位に選ばれました。英語教育力ランキングでも1位に選ばれました。

週刊ダイヤモンド10月10日号(株式会社ダイヤモンド社発行)の「息子・娘を入りたい学校」で、名古屋国際中学校・高等学校は「新学校選びランキング2015<中京版>」「中京圏3県『英語教育力』ランキング」でそれぞれ1位という高い評価を得ました。この特集は、大学入試改革をはじめとする大教育改革が進行中、学校選びの視点をどう持つべきか、新たな軸による学校評価を行ったもので、記事では現在の教育改革を次のように捉えています。

①基礎的・基本的な「知識・技能」、②それらを活用するための「思考力・判断力・表現力」、③学習に取り組む態度としての「主体性・多様性・協働性」が「学力の3要素」として定義され、2020年度からの大学入試では、「知識偏重型」から、この3要素を総合的に見る「人物重視型」へと、入手法自体が大きく変わる予定です。大学入試が変わるとなると、当然中学校

や高等学校の教育も変化していきます。これからの社会で活躍できる若者いかに育てるか。学校教育の現場では、今までにも増してそうした課題に向き合わなければなりません。特に「今の子どもたちの65%は、大学卒業後、今は存在していない職業に就く」(ニューヨーク州立大学大学院キャシー・デビッドソン教授)、「今後10~20年で約47%の仕事が自動化される」(オックスフォード大学マイケル・A・オズボーン准教授)という時代に、子どもたちにどんなキャリア観を与えられるかは、学校教育の大きな課題となっています。また、大学入試を突破するための英語ではなく、実際に使える「読む・聞く・話す・書く」の4技能に重点をおいた英語力の育成など国際感覚を養う教育の拡充も求められています。こうした大きな教育改革の流れを受けて、ダイヤモンド編集部では学校向けアンケートを実施し、さらに、学校法人の財務データによる「経営安定性」も調査しました。そして完成したのが「新学

校選びランキング2015<中京版>、「中京圏3県『英語教育力』ランキング」で、偏差値などを用いない新しい学校選びの評価軸となっています。このランキングで名古屋国際中学校・高等学校が1位に位置したのは、文部科学省スーパーグローバルハイスクール・A

ソシエイト校や国際バカロレア・ディプロマプログラム認定校など本校の教育研究活動、特に国際教育が高く評価されたものだと言っています。本校保護者の皆様には、ウェブでスクールプラス上で記事本文(オリジナル)を紹介しています。☑

偏差値・合格実績に頼らず評価

新学校選びランキング2015<中京版>

総合順位	学校名	所在地	私/国	共学区分	合計	英語	キャリア	経営力財務 運営
1	名古屋国際	愛知	私	共	19	11	4	3
2	A	岐阜	私	共	17	6	5	3
3	B	三重	私	共	15	6	5	1
	C	三重	私	女	15	6	8	1
5	D	愛知	私	共	14	4	8	1
	E	愛知	私	共	14	4	7	1
	F	愛知	私	共	14	5	7	1
	G	愛知	私	男	14	7	5	1
	H	愛知	私	男	14	6	5	1
	I	愛知	私	女	14	6	4	1
	J	愛知	私	男	14	5	6	2
12	K	岐阜	私	女	13	7	3	3
13	L	岐阜	私	共	12	5	4	1
	M	愛知	私	女	12	2	7	1
15	N	愛知	私	女	11	3	5	2
	O	愛知	私	男	11	2	7	0
	P	三重	私	共	11	5	4	1
18	Q	愛知	私	共	10	2	6	1
	R	愛知	私	女	10	3	6	0
	S	愛知	私	女	10	3	5	1
	T	愛知	私	共	10	4	4	1
	U	愛知	私	女	10	4	3	3
	V	愛知	私	共	10	7	2	1
	W	愛知	国	共	10	3	1	3

「新学校選びランキング2015<中京版>」の作成と調整について

- 【ランキング】8~9月、岐阜・愛知・三重3県の中高一貫校47校を対象にアンケートを実施。35校の回答と3県の情報公開資料等を基に作成。合計30点満点。
- 【英語教育力】(12点)裏面表を参照。
- 【キャリア教育力】(10点)後援会組織の力や外部連携など9項目を評価基準にした。教育には経営力が重要とみて以下も加味した。
- 【財務の健全性】(4点)「帰属収入支出差額比率」と「自己資金校正比率」を基に相対評価した。
- 【運営の安定度】(4点)「合格歩留まり率」と「収容定員率」を基に相対評価した。
- 【詳細】配点等は、週刊ダイヤモンドサイト「ディリー・ダイヤモンド」にて詳報。

英語は名古屋国際が圧倒

中京圏3県「英語教育力」ランキング

順位	学校名	合計 (12点満点)	授業(%)	教員(%)	提携校 (校)	教科書	IB	発信	テスト	海外 体験
1	名古屋国際	11	17	28	9	○	○	○	○	○
2	A	7	19	6	1	○				
	B	7	19	3	1	○			○	○
	C	7	17	13	2	○		○		
5	D	6	21	4	1	○				○
	E	6	19	3	3	○				○
	F	6	19	4	0	○		○		○
	G	6	17	3	2	○				○
	H	6	18	7	11	○				○
10	I	5	23	0	1	○				○
	J	5	17	4	14					○
	K	5	16	0	1	○		○	○	
	L	5	18	4	1	○				
	M	5	21	5	3			○	○	
	N	5	16	2	1	○				○

週刊ダイヤモンド「新学校選びランキング2015<中京版>」

見方と配点:

【授業】 中学1年生時の英語授業コマ数比率

【教員】 常勤の専任教員のうちネイティブスピーカーの割合(帰国子女を含む)

【提携校】 交換留学・交流プログラムのある海外提携校数で、これら3指標は上位10%(3位以内)に2点、上位10%超~50%(4~17位)に1点を付与。

【教科書】 検定外教科書利用(2点)

【IB】 国際バカロレア校の認定、/認定予定がある(1点)

【発信】 英語ディベートや模擬国連など英語で考えを発信する活動に参加している(1点)

【テスト】 TOEICやTOEFLなど、統一的な英語力判定テストの受検を義務付けている(1点)

【海外体験】 2週間以上海外に滞在する語学体験プログラムがある(1点)

※記事の文章および画像は、株式会社ダイヤモンド社の許諾を得ています。

Hot! Information

SGHアソシエイト 活動報告会開催!

2016年2月12日(金)本校にて、2015度の本校のSGHアソシエイト活動を総括する報告会としてSGHアソシエイト活動報告会を実施いたします。今回の活動報告会では、生徒が今年度の本校SGHアソシエイト活動の実践事例や取り組みをまとめ、プレゼンテーショ



ンやボスターセッションにて成果発表を行います。その他、アクティブラーニングを用いた模擬授業、卒業生によるSOCIAL ACTION!(社会貢献活動)の紹介や、本校でも実践している「フェアトレード」について、名古屋商科大学の学生にヨーロッパでのフェアトレード活動の講演を行っていただく予定です。当日は大学の先生、今年度本校にご協力いただきました一般企業の方々を招きし、さらに交流が深められる機会となるような様々な企画を予定しております。☑

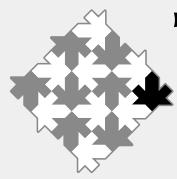
お申し込み・参加方法は本校ホームページをご覧ください。

ご多用のことと存じますが皆様にご参加いただき、ご指導ご助言を賜りたく、ご案内申し上げます。多くの皆様のご参加をお待ちしております。

発行 名古屋国際中学校・高等学校
NAGOYA INTERNATIONAL JUNIOR & SENIOR HIGH SCHOOL
所在地 〒466-0841 名古屋市昭和区広路本町1-16
発行月 年間4回

制作 学校法人栗本学園
名古屋国際中学校・高等学校
学内広報チーム
デザイン cluch on cluch Co.,Ltd.
企画協力 株式会社 イーブレイン

TIMES 設置配布協力先
名古屋国際中学校・高等学校事務局前/名古屋商科大学 地域活性化研究センター/名古屋商科大学 中央情報センター/独立行政法人国際協力機構中部国際センター/認定NPO法人ICAN
広報紙「THE FRONTIER TIMES」に関するご意見・ご感想は frontiertimes@nihs.ed.jp までお送りください。本紙に掲載されている記事、画像など全てのコンテンツの著作権は名古屋国際中学校・高等学校に帰属します。私的利用以外の目的で複写・複製することはできません。



THE FRONTIER TIMES

[ザ・フロンティア・タイムズ]



▲2015年11月10日 プリティッシュコロンビア大学アドミッションオフィサーによる大学説明を受ける国際生(本紙6面REPORT参照)

[No.1 in New-Style School Ranking]

The October 10, 2015 Chukyo edition of the national weekly magazine Diamond shared the results of a new-style school ranking. The edition's special feature, entitled "Schools We'd Like Our Sons and Daughters to Attend", ranked NIHS number one overall in Aichi-Mie-Gifu and recognized it as this region's overwhelming leader in English education.

Schools these days are in a state of ferment as they attempt to respond to enormous changes in the environment. Scholars predict that over sixty percent of the jobs that will be available to children now enrolling in junior high school don't even exist yet. Nearly fifty percent of the work that now engages us and provides our livelihoods will have been automated. How do schools prepare students for such a world?

In the past, schools privileged convergent thinking. Students were taught to fit the one right

piece into a jigsaw puzzle and were rewarded for doing so. Now schools increasingly value and reward students who can think outside the box. They view student work as a Lego building blocks exercise rather than as a jigsaw puzzle. In the new model, students must learn to use their knowledge and skills to develop their ideas in a free-form manner and to avoid confining themselves to an increasingly unavailing search for "the one right answer".

Educators understand that they now must give students abundant opportunities to engage in critical thinking. They must cultivate students who are independent inquirers and effective members of problem-solving teams. These young people must be able to express themselves confidently and effectively, value different perspectives and construct responses to problems or prompts in a creative fashion rather than by reciting or uncritically applying facts

and formulae that they have learned passively.

Universities all over the world are alert to these changes in the environment. They are rapidly abandoning their reliance on standardized test results and are introducing admissions procedures that rely on a holistic assessment of human factors. They seek students who possess the skills, dispositions and potential for inquiry-based and cooperative learning. The new paradigm compels them to do so.

Organizations that rank schools have followed suit by developing new criteria for measuring school effectiveness based on this shift in university admissions criteria. We at NIHS are delighted that these new-style rankings are publicizing what we've maintained for many years now—that the kind of education we are providing at our school is precisely what parents seek and what our rapidly changing world demands.☑